

(学校番号216) 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三室中学校】

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」の平均正答率を、市平均正答率±3pt以内とする。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組む。学習履歴を自分の学習の調整や教師による指導の改善に役立てる。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」の平均正答率を、市平均正答率±4pt以内とする。	⇒ 「Teams」や「ムーブノート」等を活用し、他者と意見を共有したり対話したりする中で、自分の考えを広げたり深めたりする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるかどうか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 自己の学習を振り返る時間を設定し、教師が間違えやすいポイントを繰り返し説明したり、新たな課題を示したりすることで、学びの個別最適化を図る。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析		
全国学力・学習状況調査結果		国語:-5 数学:-3 英語:-3
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、国語、数学、英語とも結果に課題が見られた。国語では、特に「我が国の言語文化に関する事項」の理解について課題が見られた一方、「情報の扱い方に関する事項」では正答率が比較的高く、読解力向上の取組の成果が表れたと考えられる。	
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、国語、数学、英語とも結果に課題が見られた。特に数学では、「数と式」に関する記述式の問題で無解答率が高いことが課題である。それと比較して、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして説明する問題では、高い正答率となった。	
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査において、目標値を設定している市学習状況調査の質問項目と同様の「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるかどうか」という質問項目で、肯定的な回答の割合が、目標値を上回る結果であった。	

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒
思考・判断・表現	変更なし	⇒
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。		
中1	国語では「話すこと・聞くこと」において正答率が比較的高かったものの、「我が国の言語文化に関する事項」においては無回答率が高い結果となった。数学では「知識・技能」において一定の成果が見られた一方、「思考・判断・表現」においては課題が見られる結果となった。	
中2	国語では「話すこと・聞くこと」や「書くこと」において正答率が比較的高かったものの、「我が国の言語文化に関する事項」においては課題が見られる結果となった。数学では「データの活用」で正答率が比較的高かった一方、「関数」においては課題が見られる結果となった。	
中3	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるかどうか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は91%であった。自らの学習を改善し、調整しようとする姿が見られたと考えられる。	

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟について、継続的に取組を実施した。教科によっては目標値を達成することができたが、次年度以降も引き続き策を講じていく必要がある。	B
思考・判断・表現	教科によっては目標値を達成することができた。「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合がすべての学年で80%を上回った。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるかどうか」の質問項目において、肯定的な回答の割合がすべての学年で80%を上回り、目標を達成することができた。	A

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能の定着において生徒によって差が見られる。ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりを推進し、「個別最適な学び」のための手立てを講じていきたい。
思考・判断・表現	課題の解決に向けて粘り強く考える力を育てていくことが課題であると考えられる。主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に継続して取り組み、ICTを効果的に活用したり、話し合い活動を充実させたりすることで、各教科の思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるかどうか」の質問項目において、すべての学年で肯定的な回答の割合をさらに伸ばしていきたい。引き続き生徒が自らの学びを調整できるよう指導していく。

※評価  
A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)